令和７年度 事業評価報告書

日　時：2026 年 1 月 12 日（月・祝）10:00～17:30
会　場：京都市中央青少年活動センター
参加者：45 名（職員 23 名／理事・評議員 8 名／外部協力者 14 名）

１．事業評価の位置づけ

①毎年の事業評価は、年度事業方針をもとに作成した事業プランで設定した評価指標をもとに、中間（概ね１１～１２月末時点）での評価を行い、実践の価値づけや課題整理を行い、次年度事業や今後の事業展開につなげていくことを目的としている。

②各事業所で取り組んだ事業評価は中間での評価で、本来は年度終了後にも事後評価すべきものである。現状では翌年度４～５月に事業報告を作成するが、年間の事業をふりかえり、評価することを経て事業報告を作成するものとして捉える。

＊年間事業に関する計画・評価の一連の流れ（①②より）

1 月	2 月	3 月	4 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
2025 年度事業方針	事業プラン・計画作成	事業計画理事会承認	事業プラン修正	上半期事業報告作成	上半期報告理事会承認	事業所内中間評価	事業評価会→分析	－	－	事後評価→報告	事業報告理事会承認
							2026 年度事業方針へ	事業プラン・計画作成	事業計画理事会承認	事業プラン修正	－

２．事業評価会の進め方

□ 職員や役員の内部評価ではなく、外部評価委員を交えた評価会とする。

□ 取り扱う事業について
全体で１５０以上の細かい事業があり、そのすべてを取り扱うのは困難であり、各事業所より１事業項目２～３事業を抽出し議論する。事業抽出の観点は事業所ごとに異なるが、最終的な目標は共通のものとする。

□ 全体を７グループに分け（1 グループ 6 名程度）、各グループで３事業所分の事業評価を実施する。具体的には、各事業所が作成した自己評価をもとに、事業を実施した結果の「事実」に基づき、「どんな成果（若者の変化、若者を取り巻く環境の変化等）がもたらされたか」を報告する。それを受けて、参加者はシートを記載。

□ シートの前半は、「団体の大切にしたいこと」８項目と照らし合わせ「どの項目をどの程度生み出せている事業か」「その理由は何か」／
シートの後半は、短期・中期アウトカムを高めるために「必要なアウトプットは何か」「どんな工夫や視点、整理があるといいか」

□ 記入した内容を出し合いながら、意見交換を行い、多様な視点で捉え直す。

□ 最後に外部評価委員より評価コメントをいただく機会を持つ。

３．事業評価会アンケートより（外部評価委員よりのアンケート結果）

（１）事業評価が十分にできたか（価値抽出が充分にできたか）

＊平均 89.3 点（80-100 点）

（２）改善ポイントとその理由

・すばらしかったです！これまで～前年度の学びをふまえてどうつながっているのかの補足があるとより良い。単年度で評価できるときもあるが、つみ上げてきたももの大事。
・事業評価について意見を自由に交換することができたため１００点。
・若者との関わり合いにとって必要なことが項目としてあった。
・みなさんが色んな考えのもと評価されていてすばらしかった。
・団体として大切にしていきたいことでは汲みとれない重要な論点が複数出たので、完全に準拠していなくてむしろよかった。
・若者とワーカー、若者同士、ボランティアと若者などの境界線を保ちながら、でも“一人ではない”と感じさせる安心できる空間の提供ができると良い。
・フィードバックを受けて、発表者がどのように感じたかを述べる時間を意図的に作ることで、大切にしていること「8．ワーカーのあり方」が実現するのではないかと感じた。
・フィードバックが難しく、話し合いの補助になるようなフォーマットに変えてもらいたい。
・理想的なうまくいった事例だけではなく、うまくいかなかった事例があるとより具体的な評価につながる。
・せっかくの場なので、参加している皆様と話す機会があればよかった。
・担当でないことから、詳細が分からないことがあったので、それが無くなると良い。
・Principle とロジックモデル双方話さないといけないため、時間の制限があった。全体を通して概念は 1 日通して大切にできた。
・ロジックモデルによる評価が若干難しかった。
・ロジックモデルのアウトプットへのコメントは、そもそもアウトカムの議論をしたくなってしまって考えるのが難しかった。結果、気づきかコメントを羅列してしまった。

（３）事業評価ヒアリングを経て、改めて考える「団体の価値」とは何か。

・やわらかさ：やりたい思いを受け止める。受動的な子達の心をほぐす、居るだけでいい場所を作る → どれも必要だと気付いた。
・若者の声をもとに社会へのアプローチ → 若者をとりまく社会をどうしていくともっといいのかという活動も大事。
・「若者の出会いと入口、社会とのつながり」を大切にしたい。私自身がまだ 20 代なので、交流を大切にして、視野を広げ、社会とつながりたい。
・スタッフが楽しんで事業・若者に関わること
・事業の中で、これを大切にしたい！重要！というポイントを決めたら、その軸を変えずに続けていくこと。結局、軸がずれてしまったら、何も達成できず、報われない。
・若者の主体性、自主性。・居場所作り/社会とのつながり
・「社会とのつながり」大人になる過程でどう社会とスムーズに接続できるようにしていくのかが、団体でしかできない大きな社会的価値があると考えているため。
・「社会とのつながり」どんな活動をしていても、最後はその方の自立だと思うから。
・「若者主体」「地域とのつながり」
・「ワーカーのあり方」今回のグループではあまり言及されなかったため。
・若者とともにあること。すでに行われている実践、日常の中にあふれた、その価値を改めて大切にしてほしいと思った。
・「若者を取りまく社会へのアプローチ」ワーカーとしての私の声も大事にする、されること。

（４）事業評価ヒアリングを通して得られた気づきがあれば記載ください。

・センターを利用する若者のニーズと、センターの事業を合致させていくには日々のトライと、エラーが必要となる。
・シートに書かせていただき、さいごのコメントでもお伝えしたとおりです！・自組織にも取り入れたいです！・勇気づけられました！
・（学習支援）→ 子どものみだけではなく障害者の方、外国人の方についても広く、深い支援の入口があること。
・様々な事業に取り組まれていること。・報告・ふりかえりの重要性を改めて感じました。
・他センター、外部者を入れて評価するのは良い壁打ちにもなるし、なにより楽しかった。
・団体には様々な活動があり、色々なところと連携していると気づいた。行政なのに縦割りではなく横のつながりがあることがいいと思った。
・若者というキーワード、その特性を生かした活動をすることの重要性。
・たくさんの事業を担われているということを改めて感じた１日でした。
・団体の事業をもっとアピールすべきだと思う。
・ユースワークへの理解が深まりました。今回関われたことが、今後生活する社会、地域への関わりに活かされていくのではと思います。貴重な機会をありがとうございました。
・それぞれの立場で率直に発言できる場が貴重であることを改めて実感しました。
・エピソードに宿る！

（５）その他（今日の感想や体制課題，次年度の“事業”・”評価”に望むことなど）

・これまで～前年度の学びをふまえてどうつながっているのかの補足を反映できそうならぜひ。
・とてもよい機会なので活動について周りに広めたほうが、お互いに良い。
・初めてで、どうなるか分からなかったが、１日通して楽しかった。
・事業体制の内情が難しかったため、事業について体制を詳しく話していただけるとうれしい。
・楽しく参加させていただけた。
・資料の構成（どれがどこの資料か、どのような種類の情報がのっているのか）がもう少し分かりやすいと嬉しい。
・今回初めて参加する職員さんがとても緊張されているのを見て、自事業をコトバにすること、そこにポシティブフィードバックをもらえることがとてもよい経験になると改めて思った。
・このヒアリングがこの規模で実施されていることに感動した。僕もユースワーク頑張ります！もっと若者がいればもっといいのに、と思いました。

４．まとめ

・今年度は Principle ベースの評価に加えて、各事業所でのロジックモデルをもとにした評価よりアウトカムやエピソードに注目し、評価ヒアリングを実施した。
・参加した職員の声からは例年よりも評価ヒアリングを進めやすかった声が多く聞かれたが、外部評価委員からの声としても、一定の評価ができていること、価値抽出ができていることが確認できた。
・同時に評価の仕方自体に対してのご意見も複数いただいており、改善も必要である。
・毎年事業評価は改善を重ねている取組ではあるが、今後もいただいた声をもとに取り組んでいく必要がある。
・特に外部評価委員として若者自身にも関わってもらうようにしているが、今年度は例年より少なく、若者の声を大切にしようとしている団体として、若者の声を聴き反映する取組として、より多くの若者に参画してもらえるようにしていきたい。